4 徳島県立文学書道館【30,119千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しまれ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業 【1,559 千円】

	事業名	概　要	経費(円)
1	第20回とくしま文学賞	広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。令和4年度は、小説21人、脚本3人、文芸評論3人、児童文学5人、随筆75人、現代詩388人、短歌262人、俳句401人、川柳149人、連句17人の計1,324人から2,012点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。 表彰式:令和5年2月11日(土・祝) 応募者数: 1,324人 応募作品数: 2,012点 会場:ギャラリー	1,558,740
	小計		1,558,740

(2) 年鑑編集・刊行事業 【378千円】

	事業名	概　要	経費(円)
1	研究紀要「水脈」19号	館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。 B5版サイズ　700部 販売価格:無料	377,300
	小計		377,300

(3) 教育普及育成事業 【3,666千円】

	事業名	概　要	経費(円)
1	文学講座 大高翔の俳句教室	俳人として10代から第一線で活躍する大高翔さんによる若者向けの俳句講座。「自分らしい句を作ること」を目標とし、句会を重ねることで実践的に作句方法を学んだ。なお、講師が渡米したため、今回で終了した。 日時:令和4年4月～6月(全5回) 受講者数:49人 受講料:無料 会場:講座室	537,345
2	文学講座 芸術・文化を語る	徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな社会の生き方について考える講座。奈良女子大学研究院人文科学系助教の米津美香さん、京都大学名誉教授の鎌田東二さん、小松島市文化財保護審議会委員の森脇佳代子さん、篪庵トラスト理事長のアレックス・カーさんの徳島ゆかりの講師4人を迎えた講座は、いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、充実したものとなった。 日時:令和4年6月～9月(全4回) 受講者数:130人 受講料:無料 会場:講座室	355,225

（3） 教育普及育成事業

	事業名	概　要	経費（円）
3	文学講座 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	女優の山口果林さんらが12年にわたって上演し続けた原爆朗読劇を当館が引き継ぎ、第2回を上演した。迫力ある朗読に、参加者からのアンケートでは、「言葉に心がこもっていて感動した」「生かされていることの意味を考える機会になった」といった声が多く寄せられた。 日時：令和4年8月7日（日） 受講者数：94人 受講料：無料 会場：ギャラリー	311,197
4	第21回言の葉朗読会	開館以来、毎年開催している言の葉朗読会には、27組、総勢30人が出演した。幅広いジャンルの作品が朗読され、BGMを流したり、会話の掛け合いがあったりなど、楽しく充実した朗読会であった。 日時：令和4年9月23日（金・祝） 受講者数：67人 受講料：無料 会場：講座室	0
5	文学講座 短歌を作ろう	歌人の竹安隆代さんを講師に迎え、現代短歌の秀歌を鑑賞しつつ、実作を基礎から学ぶ講座。「季節を詠む」など、各回のテーマについて理解を深めながら、経験者も初心者も共に実作を試み、短歌を作る楽しさを味わった。 日時：令和4年10月～令和5年3月（全6回） 受講者数：177人 受講料：無料 会場：講座室	120,000
6	秋の文学講演会Ⅰ	1991年に「青春デンデケデケデケ」で直木賞を受賞した芦原すなおさんを招いた。「青春デンデケデケデケ」が生まれた経緯や、なぜ讃岐弁の物語設定でなければならなかったのか、また映画化にあたって、大林宣彦監督がその作家の意図を十分に理解してくれたことなどについて語った。 日時：令和4年10月9日（日） 受講者数：77人 受講料：無料 会場：ギャラリー	462,700
	秋の文学講演会Ⅱ	三島由紀夫賞、芥川賞など、数々の賞を受賞した堀江敏幸さんを招いた。すでに出会っていたかもしれないささやかな事柄が、思いがけないところで再び出会い、人間の不思議な物語を作り出していく「出会い直すことについて」語った。 日時：令和4年11月27日（日） 受講者数：73人 受講料：無料 会場：ギャラリー	

（3） 教育普及育成事業

	事業名	概　要	経費（円）
7	文学講座 古典を読む	堤和博徳大大学院教授が講師を務める講座。鳴門にも墓があるといわれる清少納言が零落した説話を紹介し、深く読み込んでいった。 日時：令和4年11月～令和5年3月（全4回） 受講者数：75人 受講料：無料 会場：講座室	90,000
8	書道講座 一流書家による席上揮毫	現代書壇を代表する書家の一人、倉橋奇艸さん（日展会員）が作品制作の姿を披露した。前半は、藤原佐理、良寛らの書をはじめ、現代仮名書壇の名家の手紙を紹介し、それぞれの特徴や工夫を解説した。続いて、席上揮毫を披露。その巧みな筆使いに、受講生は見入っていた。 日時：令和4年9月11日（日） 受講者数：75人 受講料：無料 会場：ギャラリー	263,726
9	書道講座 書道講演会	「製硯師」として硯の製作、修理、復元、プロデュースを行っている青柳貴史さんを招いての講演会。はじめに、硯の歴史や種類、名称、石の産地などを解説し、硯の石の採集や製作の様子を映像で紹介した。さらに、子供たちに硯のことを知ってもらうために発行した絵本や、月の石で硯を作り、小筆で文字を書くイベントを開催したことなど、「モノだけではない、コトを作っていく」をコンセプトに、硯を製作するだけでなく、硯の良さを知ってもらい、毛筆文化の発展のために活動していることを熱く語った。 日時：令和4年10月10日（月・祝） 受講者数：82人 受講料：無料 会場：ギャラリー	131,669
10	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦！	毎年恒例の小学生対象の講座。1年生から5年生まで18人が、伝統文化の「書き初め」にちなんで特大筆（全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm）と68cm×70cmの紙を使って大字作品を制作した。はじめに書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、その後約1時間で、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がり、作品は1月12日から29日まで1階ロビーに展示した。 日時：令和5年1月9日（月・祝） 受講者数：18人 受講料：無料 会場：講座室・実習室	26,950

（3） 教育普及育成事業

	事業名	概　要	経費(円)
11	書道講座 書の鑑賞	篆刻家・書家として第一線で活躍している真鍋井蛙さんによる書の鑑賞講座。開催中だった「秋・冬の書道収蔵品展」に展示されている有名書家の作品の印に注目し、その特徴や押し方について解説した。「印識」という篆刻する上でのルールについてもわかりやすく説明。聴講者は自分が印を頼んだり、鑑賞したり、刻したりする際のヒントになったようだ。 日時:令和5年1月29日(日) 受講者数:94人 受講料:無料 会場:ギャラリー	129,355
12	書道講座 書道実技講座－近代詩文書	書道作品の制作を行う実践的な講座で、講師は小竹石雲さん(毎日書道会理事)。1回目は、「古典に学ぶ表現の工夫」として、「清新さ」「素朴さ」「豪放さ」について説明した。その3つの書風を範書して筆使いを説明した後、受講者が書きたい書風を1つ選び、講師が手本を書いた。2回目は、お手本を元に、作品の構成・余白・遠近感についての解説があり、受講者が書きたい題材で制作した作品を講師が添削指導した。3回目は、受講者の作風に合わせた指導により、作品が完成。作品は4月15日～5月14日に1階ロビーで展示した。 日時:令和5年2月～3月(全3回) 受講者数:30人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室	118,140
13	ことのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的として開催。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性を生み出している。 日時:令和4年5月～5年3月(全6回) 入場者数:602人 入場料:無料 会場:ロビー	1,119,420
	小計		3,665,727

（4） 展示事業 【24,518千円】

	事業名	概　要	経費(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 （常設展示事業）	瀬戸内寂聴の人生の歩みと文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	－

（4）　展示事業

	事業名	概　　要	経費（円）
2	文学常設展 文学常設展示室 （常設展示事業）	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などを紹介している。展示室では、企画展「佐古純一郎の夏目漱石論」を開催した。 期間：通年 会場：文学常設展示室	－
3	文学常設展 収蔵展示室 （常設展示事業）	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管した収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行っている。 期間：通年 会場：収蔵展示室	－
4	書道常設展 書道美術常設展示室 （常設展示事業）	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介している。 期間：通年 会場：書道美術常設展示室	－
5	文学特別展 追悼　瀬戸内寂聴 （特別展示事業）	2021年11月に99歳で死去した瀬戸内寂聴の文学的業績と、出家以降の「忘己利他」の精神で人々のために尽くした生涯を紹介した。また、生前最後の原稿や、趣味の木彫の仏や水彩画、着物や愛用品なども展示し、多趣味であった故人を偲んだ。 会期：令和4年4月9日（土）～5月22日（日） 39日間 入場者数：1,179人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,270,351
6	書道特別展 驥山館所蔵 小坂奇石の名品 （特別展示事業）	長野県にある驥山館は、小坂奇石が父親のように慕い、書家として初めて日本芸術院賞を受賞した川村驥山の作品を紹介する美術館で、親交のあった奇石の作品も多数収蔵されている。本展では、その中から日展や現代書道二十人展、日本書芸院展などの出品作を中心に、徳島初公開の25点を含む38点を展示した。 会期：令和4年6月17日（金）～8月3日（水） 41日間 入場者数：1,145人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・ギャラリー	2,287,369

(4)　展示事業

	事業名	概　　要	経費(円)
7	文学特別展 原田一美 －子供たちへの伝言 （特別展示事業）	徳島県吉野川市山川町生まれの児童文学作家・原田一美は、十六地蔵や板東俘虜収容所、祖谷のかずら橋など徳島ゆかりの素材にこだわり、その風土とそこに暮らす人々を描き続けた。本展では、人間に対する深い愛情と平和への強い思いが込められた作品と生涯を、直筆原稿や取材ノート、折々の写真などとともに紹介した。また、神山町の神領小学校に伝わる青い目の人形アリスちゃんやモラエスの遺品の皿など、作品に登場する物品や一美が作詞した歌詞なども併せて展示した。 会期：令和4年8月11日（木・祝）～9月25日（日） 40日間 入場者数：572人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・収蔵展示室	1,548,911
8	書道特別展 生誕100年　今井凌雪 －理知と思索の書 （特別展示事業）	「書とは何か」「本物の書とは」と常に思索し、多彩な書作品を発表し続けた書家・今井凌雪の生誕100年を記念する展覧会。楷行草篆隷の五書体、漢字仮名交じりの書、篆刻、映画の題字など、凌雪作品のバラエティーの豊かさがうかがえる51点を、自用印や遺愛品などの資料と共に展示した。凌雪の揮毫映像（約47分）も放映し、大変好評であった。 会期：令和4年10月1日（土）～11月13日（日） 38日間 入場者数：1,023人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・書道美術常設展示室・収蔵展示室	2,763,414
9	文学特別展 作家の原稿 （特別展示事業）	近現代の日本を代表する作家・詩人の手書き原稿46点を展示した。漱石、太宰らが直に触れ、書き直しや赤入れの跡の残る原稿は、作者がまるでそこにいるかのような息づかいを感じさせ、作品が生まれるまでの苦悩を想像させた。作品をより多角的に感じるための工夫として、会場内に作品の一節をかたどったモビールや照明デザインを配置したのも好評だった。 会期：令和4年12月13日(火)～ 令和5年2月12日（日）　47日間 入場者数：1,101人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・収蔵展示室	6,997,152
10	書道特別展 石飛博光－律動する書 （特別展示事業）	当館初の現役書家の作品を紹介する書道特別展。日本を代表する書家・石飛博光は、「近代詩文書」の第一人者で、現代的で洗練された書が高く評価されている。本展では、東日本大震災後に、その恐怖を振り払うかのように必死で揮毫したという横16メートル余の超大作「富士山」や近年の代表作、さらに新作13点を含む43点を展示。近現代の詩歌や文章を題材に〝現代の書表現〟を追求し続ける石飛博光の、言葉と書技が織りなす書の世界を紹介した。 会期：令和5年2月17日(金)～3月26日（日） 33日間 入場者数：1,304人 観覧料：260円～520円 会場：特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	5,301,462

（4）　展示事業

	事業名	概　　要	経費（円）
11	企画展 中林梧竹－館蔵の逸品 （企画展示事業）	主に明治時代に書家として活躍し、現代にも通じる芸術的な作品を残した〝明治の三筆〟の一人、中林梧竹。今回は、開館20周年にちなんで、376点に上る梧竹の収蔵品の中から優品20点を選んで展示した。そのほか会場内で「あなたが選ぶ、梧竹ベスト1」アンケートを実施し、投票してもらった。当館の梧竹グッズを抽選で20人にプレゼントする企画も行い、梧竹作品の感想も寄せられた。 会期：令和4年6月14日（火）～9月25日（日） 91日間 入場者数：1,972人 観覧料：100円～310円 会場：書道美術常設展示室	147,197
12	文学企画展 佐古純一郎の夏目漱石論 （企画展示事業）	徳島県・神山町出身の文芸評論家・佐古純一郎は、二松学舎専門学校（現・二松学舎大学）在学中に亀井勝一郎に師事し、創元社に入社後は小林秀雄から指導を受けて文芸評論を発表。29歳の時にキリスト教の洗礼を受け、二松学舎大学で教えながら、太宰治、芥川龍之介などを対象に、キリスト教を基にした独自の評論を数多く残した。本展では、その中から夏目漱石を論じた作品にスポットを当てて紹介した。 会期：令和4年6月21日（火）～8月28日（日） 61日間 入場者数：1,672人 観覧料：100円～310円 会場：文学常設展示室	35,997
13	企画展 開館20年の歩み （企画展示事業）	開館した2002年から2022年までの各年のトピックと合わせて、特別展ポスター、特別展図録、その他の刊行物を展示し、開館以来の当館の歩みを振り返った。来場者には、図録とともに20周年記念のクリアファイル、ウェットティッシュを無料配布した。 また、10月23日には開館20周年を記念する式典とコンサートを開催した。 会期：令和4年10月22日（土）～11月20日（日） 26日間 入場者数：786人 観覧料：無料 会場：ギャラリー	2,557,206
14	書道企画展 第7回 書道創作グランプリ （企画展示事業）	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。今回は席書作品240点と招待参加者（これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者）の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者64人を表彰した。 会期：令和4年12月3日（土）～11日（日） 8日間 入場者数：456人 観覧料：無料 会場：ギャラリー	608,068
	小計		24,517,127
	合計		30,118,894